本宮市の皆さんを紹介するページ

みんなのひろば

今月の人

齋藤幸子さん
YUKIKO SAITHOU
（糠沢字光が丘）

私の随想録

「感　謝！」

皆さんはじめまして！　齋藤です。私の生まれ育ったのは、旧東和町で27歳まで住んでいました。27歳で結婚をして郡山市大槻の方に住み、平成11年3月26日こちらに住んで9年目に入り少しずつ慣れてきました。引っ越して来たばかりの時は地名も覚えられなく、近くの方々やお店に来店してくださるお客様に教えていただき、いろいろと少しずつ分かってきました。

お店という言葉が出ましたが美容師でありまして、美容室モダンタイムスを営んでいます。引っ越して4月2日にオープンし、さらに子どもたちの入学入園と続きバタバタの生活でした。

幼稚園は親が送迎することになっていますが、ある日、普通にエンジンをかけ子どもを幼稚園に送って来てエンジンをかけたら、クークーと音がしてあわてていたら同じ年少さんのお母さんが「どうしたんですか？」と声をかけてくださいました。「来るときは一度でかかったのですがかからなくなって」と言ったら、駐車場の近くの家に走って行きました。

そして、そこの家の方がバッテリーをつなぐ道具を貸してくださって、呼びに行ってくださったお母さんは私の車の近くに自分の車を移動して「ボンネット開けて」。私は、何という連係プレーだとアッケに取られて「エンジンかけてみて」と言われ、かけたら一発でかかりました。ビックリするやらで、赤面しながら「すみませんありがとうございました」と言葉を残して帰って来て、お店の営業に間に合いました。

でも、つくづくお母さんたちのパワーってすごいの一言です。その後も上の子の事やら家族全員もですが、いろいろと言葉をかけてくださったり、見守られながら住んでこれました。周りの皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。小さな一言ですが声をかけられると安心できる気持ちになれます。

私も周りの方々に迷惑ばっかりかけていないで、いつか皆様のカになれるように日々努力しつつ感謝の気持ちを忘れずに、これからも生活していきますのでよろしくお願いいたします。本宮市になってもお母さんパワーは、バリバリで～す。

◇　◇　◇　◇　◇　◇

来月は、遠藤禎実さん（字兼谷平）の予定です。

好きなことは、着物の着付け。毎月１回は講習会に参加しているが、腕前は相当なもの。着付けコンクールの東北ブロック大会では金賞受賞の経験がある。夢は、２年に１回開催される全国着付けコンクールで優勝すること。体を動かすことも好きである。地元糠沢９区のバレーボールチームに所属し、毎週１回は練習に励む。

「これから浴衣の季節です。着付けのご相談はお任せください」と話す、明るく元気なお母さん。

保育所・幼稚園紹介

こどものひろば

【第１保育所】

園児数：９２人
住所：本宮市本宮字馬場２７－１
電話：３３－２４４６

第一保育所は、昭和29年に開所した歴史と伝統のある保育所です。60年にみずいろ公園隣の現在地に移転改築されました。温かさを感じさせる木造りの園舎で、１歳から５歳までの92名の子どもたちが毎日元気に遊んでいます。

めだかや金魚、すず虫やカブトムシ、ふと見ると、園庭には、美しい花々。保護者会手作りの鶏小屋には、ようやく卵を産みはじめた烏骨鶏のお姉さん鶏が３羽いて、どれもこれも子どもたちの心を和ませてくれています。

５月に野菜の苗を植えました。するとさっそく、お迎えにきたおばあちゃんが「ナスは、３本仕立てにすんだぞい」「あららら、トマトはわき芽かがねっかだめだわい」。そのご指導のおかげで、「なんだって、おらげのきゅうりより勢いがいいない」と野菜作りベテランのおじいちゃんもびっくりするほどになりました。８月には〝野菜いっぱいカレー〟のクッキングをする予定です。自分たちで育てると、食べ物を大切にする気持ちや感謝の気持ちが生まれます。野菜も子どもたちも、たくさんの人達の手と目と愛情のおかげで、ぐんぐんのびのび育っています。

子どもは、体験から学びます。考えたり試したりチャレンジしたり。遊びの中で自分でやってみて、「心情」「意欲」「態度」といった、生きていくうえで必要なことを身につけていきます。また、第一保育所には、子育て参観や中学高校の子育て体験、ボランティアなどでたくさんの人が訪れますが、年の違ったさまざまな人とのふれあいも、とても良い経験になっています。

七夕の短冊に、お父さんお母さんから子どもへの願いが寄せられました。

〝すこやかに　元気で明るく心優しく思いやりのある子に育ってほしい〟

それは、第一保育所のめざす子ども像とほとんど同じでした。子どもの生活はつながっています。泣いて笑って怒っていじけて、そんな子ども達のありのままの姿を受けとめ、その子らしさが育つように、ご家庭と同じ思いで育てていきたいと思っています。

自分たちで育てたタマネギを収穫する子どもたち

▶子育て体験で保育所に訪れた中学生に絵本を読んでもらう子どもたち。子どもたちにも良い経験になります

もとみや特産品に賭ける人たち

～チェリートマト～（ミニトマト）

国分正昭さん
朋子さん　ご夫妻
（岩根字本郷）

甘さにこだわった健康トマトを提供しています

南米のアンデス高原が原産と言われるトマト。日本には江戸時代に伝わりましたが、食用として栽培されるようになったのは明治以降でした。その後世界各地で品種改良がされ、今では様々な種類のトマトが流通しています。

チェリートマト（ミニトマト）が本宮で栽培されるようになったのは、約25年前になります。県内では最も早い栽培地であり、全国でも珍しかったと言われています。その後は、栽培農家も増え、本宮の特産品としても紹介されてきました。

国分正昭さんは、25年前初めて本宮でチェリートマトを栽培した一人になります。県農業試験場から「新しい品種のトマトの種をいただいたので栽培してみては」との話しから栽培を始めました。国分さんは「収穫はできたものの、最初は普通のトマトのくず物と思われました。ところが、2～3年後から思わぬヒット商品となりました。一口で食べられる。弁当に入れられる。甘みがありフルーツ感覚で食べられる。特に宣伝はしませんでしたが、口コミで人気が広がったと思います」と当時を振り返ります。

現在、国分さんは、ハウスで10アールの規模で栽培しています。栽培の基本は、「安心・安全・健康」。丈夫な苗づくり、自然栽培に基づいた土づくりを心がけており、散水には井戸水を使用しています。「病気が一番心配ですが、健康な苗で栽培すると消毒もほとんどありません。甘さにこだわった、健康なトマトを消費者の皆さんに提供しています」と自信をのぞかせていました。

▶7月5日の取材当日に、体験学習で国分さんの農園を訪れていた本宮2中の生徒の皆さん

FM Mot.Com（エフエム モット コム）秘情報

あの声は、私です・・・

《パーソナリティ紹介》

◆ラジオネーム
フェアリー
◆本名：？？佳代さん
◆出身：本宮地内
◆趣味：小説を書くこと
◆担当番組：
「今夜も　んだＮｉｇｈｔ！」（毎週金曜日担当）
◆リスナーに一言：
もとみやの若者の代表として、どんどん盛り上げていきたいと思います。
若者たちよ！　フェアリーについてきなさい！
さぁ、みんなで一緒に盛り上げよう！！